

イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、あなたの家に泊まることにしている。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、私は財産の半分を貧しい人々に施します。また、誰からでも、だまし取った物は、それを四倍にして返します。」イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを探して救うために来たのである。」（ルカ 19：5～10）

主イエスはエリコに入り、町を通っておられた。この町に、ザアカイという徴税人の頭で、金持ちがいた。徴税人は文字通り、税を徴収する人である。ローマ帝国は広大な領土と、豪華な貴族社会を維持するためには膨大な費用を要し、支配下に置いた国々から税を徴収する必要に迫られていた。ローマ人が徴収すると反発を受けるので、ユダヤ人を徴税人として雇い、彼らの手で徴収させた。ユダヤ人は自国の金をローマに届ける徴税人を「罪人」と言い、売国奴と軽蔑し、ユダヤ人の共同体から排除した。ザアカイは、その徴税人たちを取り仕切る頭で、彼へのユダヤ人の反感は大きいものであったろう。

ザアカイは主イエスがエリコに来られたと聞いて、どんな人か見てみたいと思った。それは、主イエスは、徴税人、病を負って罪人と言われる人々を嫌悪せず、受け入れ、友として食事を共にされる方だと聞いていたので、見てみたいと思ったのである。主イエスの周りには多くの民衆が群がり、しかも、彼は背が低かったので、遮られて見るができなかった。彼は何としても、主イエスが見たいと、走って先回りをし、いちじく桑の木に登り、下を通られる主イエスを待ち構えた。

主イエスが、その場所に来られると、いちじく桑の木に登っているザアカイを見上げ、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、あなたの家に泊まることにしている」と、声をかけられた。彼は自分の名前を知っておられることに驚いた。エリコでは知られた徴税人の頭であったからであろうか。しかも主イエスは、今夜、自分の家に泊まってくださると言われる。彼は急いで木から降りて来て、大歓喜して主イエスを迎え入れた。これを見た民衆は皆、「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」と、徴税人の所で泊まることを不審に思い、不満をつぶやいた。しかし、ザアカイは立ち上がって、「主よ、私は財産の半分を貧しい人々に施します。また、誰からでも、だまし取った物は、それを四倍にして返します」と言った。金持ちであった彼は、財産の半分を貧しい人々に施し、不正に徴集したらならば4倍にして返すと、喜びを爆発させた。徴税人は収税所の前で、通行人の荷物を全部広げさせ、好きなだけ没収することもあったという。ザアカイもそのような不正な取り立てをしていたかも知れない。今、彼は、主イエスに、友として認められた喜びから、隣人と共に生きる「人」になった。主イエスは、「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを探して救うために来たのである」と言われた。人の子イエスが差し出したのは、生きる場を失っていた人が隣人を見出し、共に生きる人間になる救いである。ここには、ザアカイが表明した真の喜びがある。